

言葉豊かに表現する子を育むための援助の工夫

— 児童文化財の活用を通して —

研究の要約とキーワード

【研究の要約】

本研究は、絵本やわらべうた、劇遊びなどの児童文化財を通して、言葉豊かに表現する子を育むための教師の援助や環境構成の工夫を目指した実践的研究である。

具体的には、

- 1 幼稚園教育要領領域「言葉」を基に理論研究をすることにより、言葉の感覚や豊かな言葉を育むための環境構成や教師の援助の在り方、手立てを明確にした。
- 2 幼児の実態や発達を把握し、児童文化財を活用した年間指導計画を作成することにより、保育実践において見通しをもった遊びの展開・援助の工夫を行った。
- 3 言葉豊かに表現する子を育むために、言葉の美しさや面白さに気付かせたり、友達や教師とイメージを共有したりしながら、いろいろな言葉や表現に親しむことのできる援助や環境の構成、場の工夫を図った。

以上の取り組みの結果、児童文化財を通して、言葉の響きやリズムの面白さを楽しんだり、友達や教師と思いや考えを伝え合ったりし、イメージを共有しながら、幼児なりの言葉やしぐさで表現を楽しむ姿が見られた。

今後は、本研究で検証された内容を基に、作成した指導計画の見直しや環境の再構成、保育内容の再検討を行い、保育改善に努めていきたい。

【キーワード】

領域「言葉」 児童文化財 言葉の感覚 豊かな言葉 幼児なりの表現
言葉の響きの面白さや美しさ イメージの共有 絵本 劇ごっこ

宮城 喬子（北美幼稚園）

目 次

	ページ
I テーマ設定の理由	1
II 目指す幼児像	1
III 研究目標	1
IV 研究仮説	2
1 基本仮説	
2 具体仮説	
V 研究構想図	2
VI 研究内容	
1 理論研究	3
(1) 「言葉」について	
(2) 言葉を育むための環境構成	
(3) 言葉による伝え合いについて	
(4) 言葉による表現や伝え合いの援助	
(5) 言葉を豊かに育む児童文化材について	
2 指導計画	7
(1) 幼児の実態調査アンケート	
(2) 年間指導計画の作成	
VII 研究実践	
1 活動指導計画	12
2 活動の概要	15
3 公開検証保育指導案	18
4 公開検証保育の様子	21
5 公開検証保育後の様子	23
VIII 仮説の検証	
1 具体仮説(1)の検証	23
2 具体仮説(2)の検証	24
IX 研究の成果と課題	
1 成果	26
2 課題	26
〈主な参考文献〉	26

言葉豊かに表現する子を育むための援助の工夫

－ 児童文化財の活用を通して －

沖縄市立北美幼稚園 教諭 宮 城 喬 子

I テーマ設定の理由

近年の幼児を取り巻く社会環境や家庭環境の様々な変化に伴い、スマートフォンやゲーム機等の電子機器による遊びが増加し、地域において異年齢で交流する機会や家族でのコミュニケーション不足などから、子どもの育ちにも変化が見られる。幼児期は、身近な人との関わりを通して、次第に言葉を獲得し思考を深め、社会性や道徳性が培われていく時期である。言葉の発達は、言語に関する能力の発達と思考力等の発達が相互に関連していることから、小学校以降の学習や生活の基盤となる。

幼稚園教育要領の言葉の獲得に関する領域「言葉」では、「経験したことや考えたことを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。」と示されている。また、言葉の内容の取扱い（4）では、「幼児が生活の中で、言葉の響きやリズム、新しい言葉や表現などに触れ、これらを使う楽しさを味わえるようにすること。その際、絵本や物語に親しんだり、言葉遊びなどをしたりすることを通して、言葉が豊かになるようにすること。」と明記されており、日常生活の中で見たり聞いたりしたことをその時に聞いた言葉と重ねながら、意味あるものとして言葉に出会わせていくことが大切であり、絵本や物語、紙芝居などを通して美しい言葉に触れ、豊かな表現や想像する楽しさを味わえるようにすることも重視されている。

本園の幼児の実態を見てみると、明るく活発な子が多く、絵本や童謡、手遊びを好み喜んで楽しむ子が多い。また、進んで友達や教師に関わって遊べる子もいる。しかし、一方で、自分の思いや考えを上手く言葉にすることが難しい子や、相手の言葉の意味や話の内容が理解できずに戸惑っている子などの姿も見られる。

これまでの保育を振り返ると、幼稚園生活全体を通して、一人一人の言葉に対する興味・関心を読み取り、言葉を獲得していけるような環境や、獲得した言葉を用いて遊びを展開する援助の工夫が十分でなかった。

そこで、生活や遊びの多様な場面で言葉に触れ、言葉を獲得していけるように言語環境を整えるとともに、友達とイメージを共有したり、意見を出し合ったりして、言葉を使った遊びを楽しむ経験を重ねていくことが大切であると考えた。

本研究では、幼児の興味や関心、発達に即した絵本やわらべうた、劇遊びなどの児童文化財の活用を通して、言葉の響きの面白さや美しさに気付かせたり、友達や教師とイメージを共有したりしながら、いろいろな言葉や表現に親しむ環境や援助の工夫を図ることで、生活や遊びの中で豊かに言葉を使って表現する子を育むことができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 目指す幼児像

- 1 言葉の面白さや美しさが分かり、遊びや生活に取り入れて楽しむ子
- 2 人の話をよく聞き、自分の思いや考えを豊かな言葉で表現することができる子

III 研究目標

児童文化財の活用を通して、幼児の言葉を豊かにし、語彙力を高めながら、思いや考えを豊かな言葉で表現することができる環境構成や援助の仕方を見いだす。

IV 研究仮説

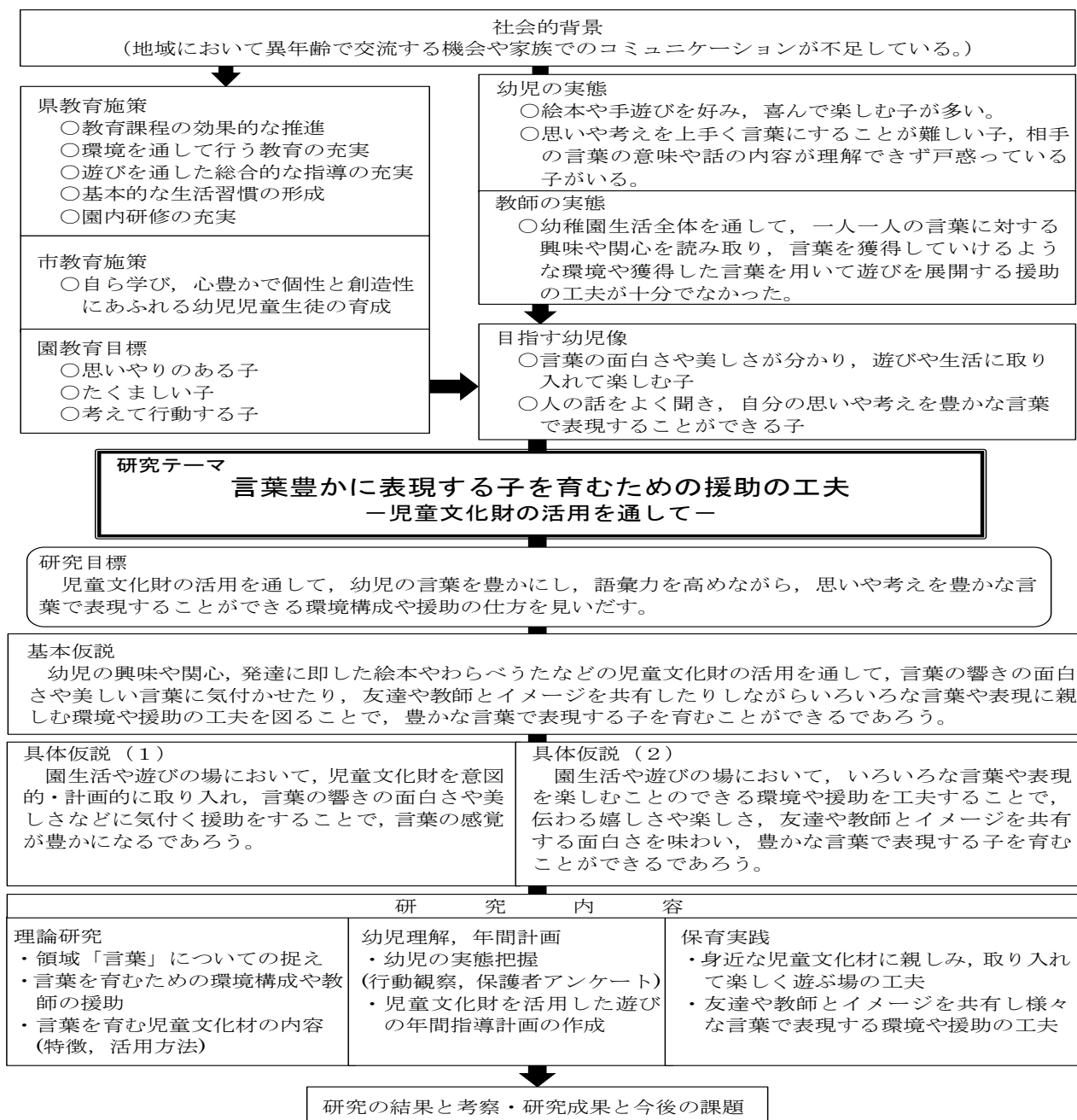
1 基本仮説

幼児の興味や関心、発達に即した絵本やわらべうたなどの児童文化財の活用を通して、言葉の響きの面白さや美しい言葉に気付かせたり、友達や教師とイメージを共有したりしながら、いろいろな言葉や表現に親しむ環境や援助の工夫を図ることで、豊かな言葉で表現する子を育むことができるであろう。

2 具体仮説

- (1) 園生活や遊びの場において、児童文化財を意図的・計画的に取り入れ、言葉の響きの面白さや美しさなどに気付く援助をすることで、言葉の感覚が豊かになるであろう。
- (2) 園生活や遊びの場において、いろいろな言葉や表現を楽しむことのできる環境や援助を工夫することで、伝わる嬉しさや楽しさ、友達や教師とイメージを共有する面白さを味わい、豊かな言葉で表現する子を育むことができるであろう。

V 研究構想図



VI 研究内容

1 理論研究

(1) 「言葉」について

① 幼稚園教育要領「言葉」に示されている言葉の重要性

言葉の獲得に関する領域「言葉」では、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」ことを目標とし、幼児が普段の生活の中で先生や友達と一緒にさまざまな経験をしながら、言葉に対する感覚を養い、言葉で表現する楽しさや伝わる楽しさを育むことの重要性が示されている。幼児期は、さまざまな人との関わりをもつことにより、言葉の種類や語彙が増える時期である。獲得されたいろいろな言葉を表現し、思いを共有し合い活動が促されるというように、言葉の働きや役割が大切になってくる。また、幼稚園教育要領「言葉」の〔内容の取扱い〕

(4)では、「幼児が生活の中で、言葉の響きやリズム、新しい言葉や表現などに触れ、これらを使う楽しさを味わえるようにすること。その際、絵本や物語などに親しんだり、言葉遊びなどをしたりすることを通して、言葉が豊かになるようにすること。」と示されており、言葉を獲得する時期である幼児期に、絵本や物語などを通して、美しい言葉に触れたり、豊かな表現や想像する楽しさを味わったりすることは大切である。

本研究の目指す幼児像である「言葉の面白さや美しさが分かり、遊びや生活に取り入れて楽しむ」「人の話をよく聞き、自分の思いや考えを豊かな言葉で表現することのできる子」を育むためには、幼児が絵本や物語などの児童文化財の活用を通して、言葉の楽しさや美しさに気付く中で、様々な思いを巡らし、その思いを教師や友達と共有しながら、幼児なりの言葉で表現することを楽しむことができる環境構成や援助の工夫が必要である。

② 言葉の機能について

古金悦子(2018)が示した、言葉のもつさまざまな機能を抜粋し、下記にまとめた。

ア 自己表現するための言葉

子どもは、1語でも言葉が使えるようになると、表情や動作も同時に用いながら自分の要求を表現するようになる。次第に語彙が増え、言葉が話せるようになると自分の思いをより正確に、具体的に他者に伝えることが可能になる。

イ コミュニケーションツールとしての言葉

人が互いに意思や感情、思想などを共有する精神的交流がコミュニケーションだといわれている。人との関わりの中で言葉を用いると、情報や意思を共有することが可能になり、コミュニケーションを図ることができる。言葉は送り手から受け手へのコミュニケーションのための伝達のツールとなる。

ウ 認知の手段としての言葉

人間独自の抽象概念は、言葉の力によって支えられている。理解したり、記憶したり、分類したりするときにも言葉が使われる。言葉には、モノや行為を意味づける記号としての働きがある。

エ 思考の手段としての言葉

人は考えるときにも、頭の中で言葉を使っており、言葉なしでイメージしたり、考えたりすることは難しい。言葉は思考の手段にもなっている。

オ 行動や感情をコントロールする言葉

言葉には、行動を促進したり、抑制したりする働きがある。自分のことを自分に向かって語りながら、自己の行動をその言葉に合うように規制していく。

③ 言葉の感覚を豊かにするためには

幼稚園教育要領解説によると、「幼児は、教師や友達と一緒に行動したりやり取りしたりすることを通して、次第に日常生活に必要な言葉が分かるようになっていく。また、幼児が絵本を見たり、物語を聞いたりして楽しみ、言葉の楽しさや美しさに気付いたり、想像上の世界や未知の世界に出会い、様々な思いを巡らし、その思いなどを教師や友達と共有したりすることが大切である。このような経験は、言葉に対する感覚を養い、状況に応じた適切な言葉の表現を使うことができるようになる上でも重要である。」と示されている。

教師は幼稚園生活において、教師や友達との言葉でのやりとりや絵本や物語などを意図的に活用することを通して、幼児が様々な言葉に出会い、言葉の響きや内容に美しさを感じたり気付いたりする援助をすると共に、その楽しさを共有したり表現したりする経験を積み重ねられるようにすることが必要だと考える。言葉の感覚を豊かにする過程を図1にまとめた。

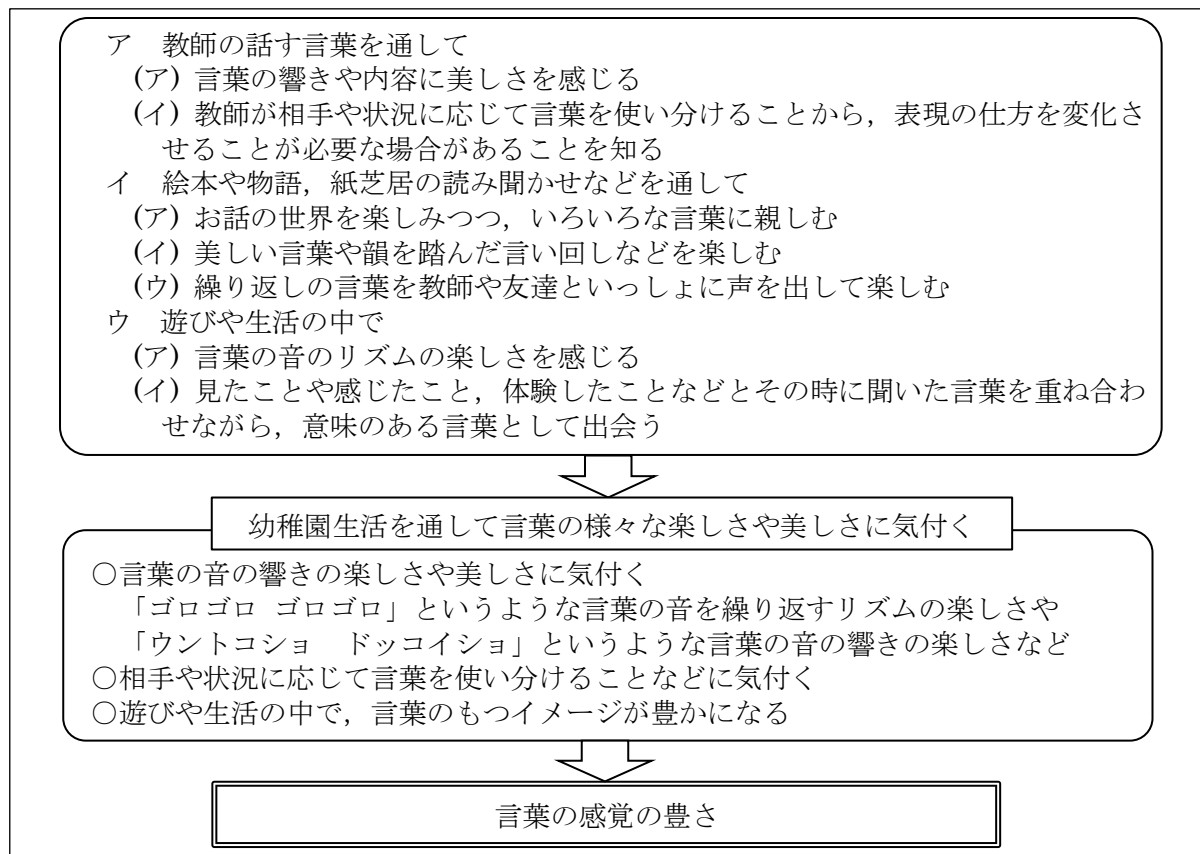


図1 遊びや生活を通して言葉の感覚が豊かにする過程(幼稚園教育要領解説参考)

(2) 言葉を育むための環境構成

言葉を育むための環境構成を保育内容「言葉」(2010)や幼稚園教育要領解説を基に、図2にまとめた。これらの環境を踏まえ、保育実践につなげていく。

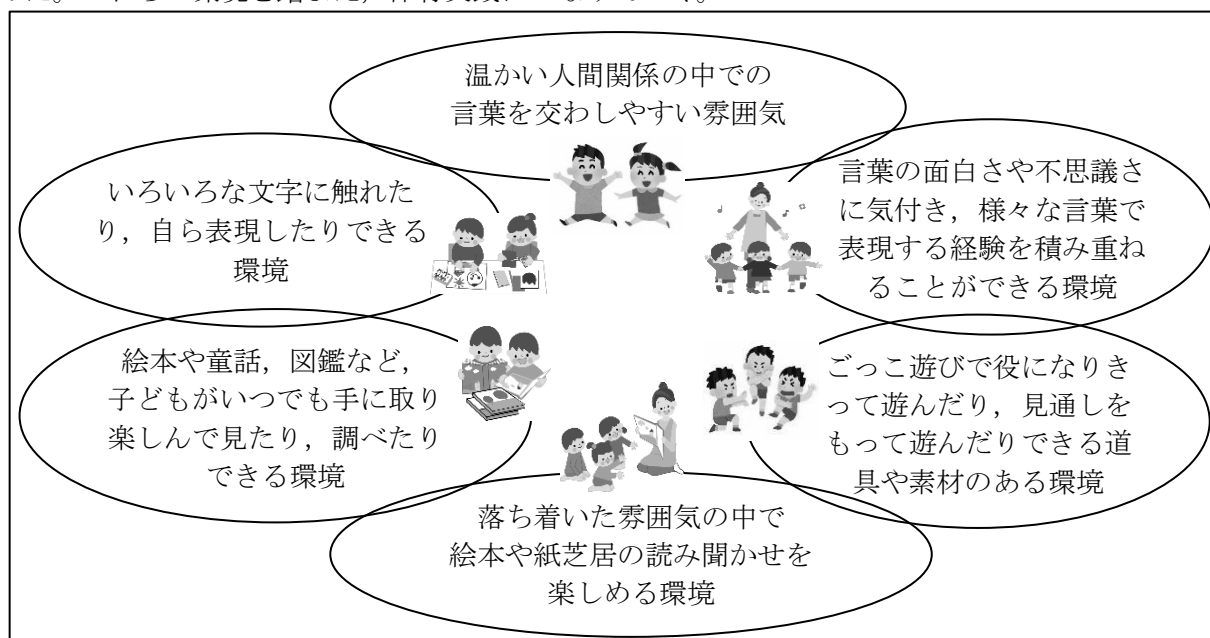


図2 言葉を育むための環境構成

(3) 言葉による伝え合いについて

幼稚園教育要領解説では、言葉による伝え合いは、「身近な親しい人との関わりや、絵本や物語に親しむ中で、様々な言葉や表現を身に付け、自分が経験したことや考えたことなどを言葉で表現し、相手の話に興味をもって聞くことなどを通して、育まれていく。」と示されている。

幼児は教師や友達と心を通わせることや教師や友達が話を聞いてくれる中で、豊かな言葉や表現を身に付けたり、言葉のやり取りの楽しさを感じたりし、そのやり取りを通して相手の話を聞いて理解したり、共感したりするようになっていく。このような体験を繰り返す中で、自分の話や思いが相手に伝わり、相手の話や思いが分かる楽しさや喜びを感じ、次第に伝え合うことができるようになっていく。

(4) 言葉による表現や伝え合いの援助

幼児が自分なりの言葉で体験や考えを表現したり、伝え合ったりするための教師の援助を、幼稚園教育要領解説、宮里暁美（2016）、古金悦子（2018）の著書を基にまとめた（表1）。

表1 言葉による表現や伝え合いの援助

① <u>話しやすい雰囲気づくり・信頼関係を築く</u>
言葉で伝える力は、幼児が親しみをもった人に伝えたい、分かってほしいと感じることで育まれ、深まっていく。幼児が教師や友達との温かな人間関係を基盤にしながら、安心して話ができるようにしていくことが大切である。また、幼児が伝えようという意欲をもったこと、そのための努力をしたこと自体を十分に認めていくようにすることも必要である。
② <u>幼児が願いや思いを表現する場面を設ける</u>
幼児のありのままの表現に耳を傾け、共感的に聞く。遊びや生活の中で、教師は子どもの思いを受け止めながら、言葉を補ったり、代弁したりしながら、子ども達が自分の願いや思いを言葉で表現し、伝えていく機会を大切にする。
③ <u>相手に伝わる言い方を共に考える</u>
子どもがつぶやいた言葉をゆっくり復唱したり、思いを尋ねたり、確認したりしながら子どもの話に耳を傾け、補ったり、言い換えたりしながら、次第に人に伝わる言い方を学んでいくことができるようにする。教師は、子どもの思いを汲み取りながら話を引き出し、相手にどうしたら伝わるのか共に考えながら、言葉で伝えるための援助をする。
④ <u>幼児の話をじっくり聞く</u>
自分の話を聞いてもらえる嬉しさを体験しながら、友達の話に興味や関心をもって聞く大切さに気付いていけるようにする。思いをしっかり受け止めて言葉を返すことで、幼児が思いを受け止められ認められる喜びや満足感を感じ、思いを伝えたいという気持ちと共に、相手の言葉を聞きたいという気持ちが育っていくようにする。
⑤ <u>伝え合いの仲立ちをする</u>
イメージを共有するためには友達の話す言葉をよく聞いて理解していく必要がある。互いの思いを理解し、共有することで、遊びがより楽しくなっていくことを知らせながら、遊びの中で状況に応じて教師が仲立ちをして言葉を付け加えたり、思いを尋ねたりすることで、話が伝わり合うよう援助する。
⑥ <u>言語環境としての教師</u>
教師自身が豊かな感性をもち、正しく分かりやすく、美しい言葉を使って幼児に語り掛け、言葉を交わす喜びや豊かな表現を伝えるモデルとなる。

(5) 言葉を豊かに育む児童文化財について

保育用語辞典第8版（2015）によると、児童文化財とは「子どもの健全な心身の発達に深いかわりをもつ有形無形のもの、技術、活動などの総称。おとなが子どものために用意した文化財や子どもが自分の生活をより楽しくするために創りだした文化財がある。広義には、子どもの生活における文化事象全般。一般的にはより狭義に、遊び、お話、玩具、図書、紙芝居、人形劇、音楽、映画、テレビ、ビデオなどを指す。」とあり、児童を取り巻く様々な文化財があげられているが、ここでは「言葉の育ちに関わる児童文化財」について考える。

子どもの言葉や豊かな感性を育む児童文化財と保育実践での活用方法について、佐野友恵(2018)らを参考に、本研究で活用予定の主な児童文化財について表2にまとめ、より効果的に児童文化財を活用した保育実践につなげていく。

表2 子どもの言葉や豊かな感性を育む児童文化財

種類		○特徴 ◇活用方法
歌を楽しむ文化財	わらべうた	○乳幼児に親しみやすい平易なリズムと比較的狭い音域、そして、心地よい速さ。歌詞についても、日本語の美しさや楽しさを自然と感じられるものが多い。わらべうたを通して感じる事ができる温もりと大人と触れ合う楽しい時間は、子どもたちに、大人からの掛け替えのない愛情を実感させる力をもつ。 ◇聞くこと、声を出すこと、それに大人が応えることを大切にする。人と関わり、地域に伝承されてきた言葉を共有し、子ども自らが生活する地域の文化を再認識し、異文化との融合によって新たな文化を創造する力へ発展させていくことができる。
	手遊び	○音楽に合わせて歌詞（言葉）の世界を手を用いて表現する遊びである。道具が不要であり、時間や場所を問わず、少人数でも大人数でも、また、幅広い年齢で気軽に遊べる。教師の動きを真似て動く力、リズムに合わせて身体を操作する力、歌詞（言葉）の世界を手で表現する力など、様々な側面の発達に関係する遊びといえる。 ◇コミュニケーションを取りながらリズムに合わせて表現することを楽しめるようにする。歌詞や動作をアレンジして楽しむこともできる。
物語を楽しむ文化財	絵本	○絵と文章が融合してつくられた本の一形態。赤ちゃんから大人まで、幅広い年代が楽しむことができる。保育現場で、最も使用頻度の高い児童文化財の一つ。大人が子どもに読み聞かせすることもあれば、子どもが自由に手に取って楽しむことも多い。絵本のお話の世界を想像し楽しみながら、言葉力と想像力、物語力を育むことができる。 ◇子どもの発達にあった、より質の高い絵本を見極める選択眼（年齢・発達に応じて選ぶ）や、作者の思いや意図の読み取り、絵本を読む技術、そして、絵本を子ども達が自由に手に取り、落ち着いて読むことができる環境構成などに留意する。
	人形劇 ペープサート	○画用紙等に絵を描いて作った人形を動かして演じるもので、比較的簡単に作れることから、保育現場での使用頻度の高い児童文化財の一つ。うちわのように棒を軸とした紙の表裏を用いて人形のポーズ、向きなどを変えることで、登場人物の感情や動作を表現することが可能である。 ◇人形を簡単に作ったり操作したりできるため、教師が「物語」を演じるだけでなく、クイズや歌、子どもたちによる劇遊びなどさまざまな保育場面で活用できる。また、人形を通して幼児同士の会話のやりとりを楽しむこともできる。
言葉のやりとりを楽しむ文化財	言葉遊び	○「頭音集め（○のつく言葉集め）」や「しりとり」は、幼児期の文字獲得の言葉遊びである。「なぞなぞ」「逆さ言葉」「早口言葉」など、言葉の面白さに触れられる遊びはたくさんある。 ◇教師や友達との楽しい会話の中で、子どもが興味をもちながら言葉に親しむことができようにする。答えるだけでなく、幼児が出題する、指名する、答えるという遊び方など、自分の知っている言葉を使うことや、友達の言葉から新しい言葉に出会う楽しみが経験できるようにする。
	劇遊び 劇づくり	○日常生活の体験を生かしイメージを膨らませて共有し合い、「そのものらしいことば」を交わし表現して楽しむ。物語の世界にひたり楽しむ中で、相手の話を聞き、相手の話に合った言葉を自分なりに考えて話し、言葉のやりとりを楽しむことができる。 ◇一人一人の言葉や表現を認め共有しながら遊びを楽しめるよう援助する。絵本の話から劇的に表現する劇遊びでは、イメージを共有するためにそれぞれの思いを受け止め整理し調整する。劇づくりを進めるにあたり、友達と話し合い工夫することを通して、連帯感を味わえるように援助する。

2 指導計画

(1) 幼児の実態調査アンケート

① 調査目的

幼児の家庭での過ごし方や遊びの様子などから、言葉の環境や育ちに関する実態を把握し、本研究の指導の方向性のために役立てる。

② 調査方法

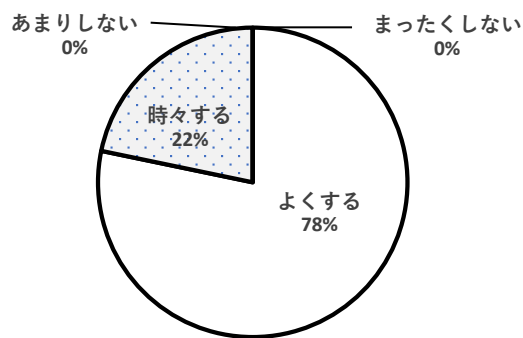
ア 調査対象：北美幼稚園対象学級 30 名の保護者

イ 調査日：令和元年 11 月 1 日

ウ 回収率：80%

③ 調査結果と考察

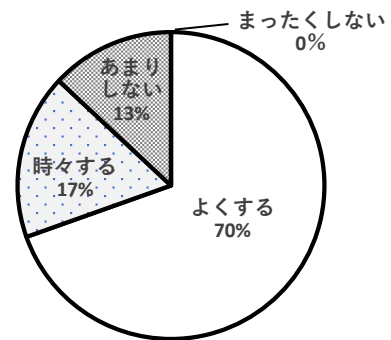
質問 1 一日の出来事について、お子さんの話を聞いたり、一緒に話し合ったりしていますか



【考察】

ほとんどの家庭において、子どもの話を聞いたり、一緒に話し合う時間をつくったりするように意識していることが分かり、よい傾向といえる。

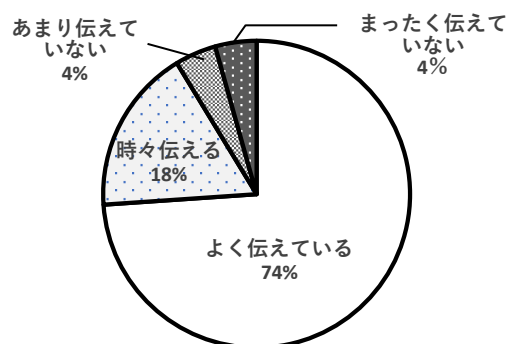
質問 2 お子さんは、幼稚園での出来事について話をしますか



【考察】

9 割近くの子どもが園での出来事を保護者に話しており、幼稚園での出来事を保護者に聞いてほしいという子どもの気持ちが伺える。

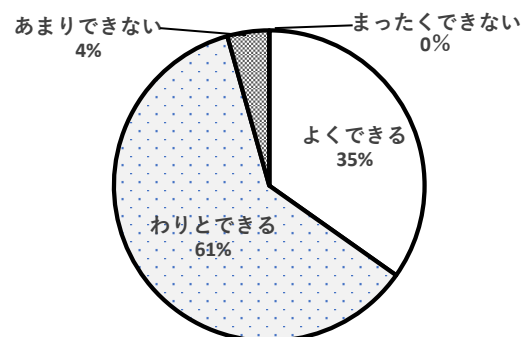
質問 3 お子さんは、幼稚園の行事や準備するものなど、教師からのお知らせを、自分の言葉で伝えていますか



【考察】

「あまり伝えていない」「まったく伝えていない」という子どもを合わせると 8% いることから、学級全体で伝えた内容を理解していなかったり、伝え方が分からなかったりするなどが考えられる。

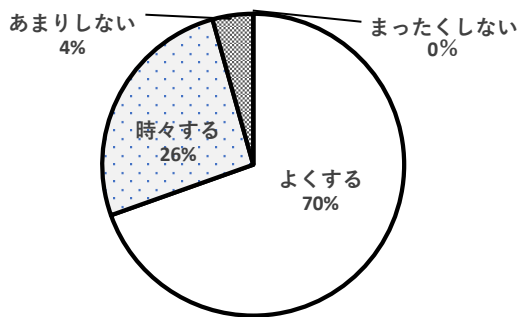
質問 4 お子さんは、お父さんやお母さんに自分の思ったことを言葉で伝えることができますか



【考察】

「あまりできない」という子どもが 4% おり、安心して話すことのできる家庭においても保護者に自分の思ったことを言葉で伝えることに、難しさを感じていることが考えられる。

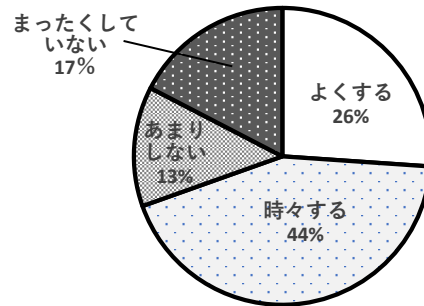
質問5 お子さんは、幼稚園で覚えた歌や手遊びを口ずさんだり、ダンスを踊ったりしますか



【考察】

ほとんどの子が幼稚園で覚えた歌や手遊び歌、ダンスに興味をもち、歌ったり体で表現したりすることが好きなことが分かる。遊びや生活の中で、子どもの興味・関心を捉えた教材を取り入れていきたい。

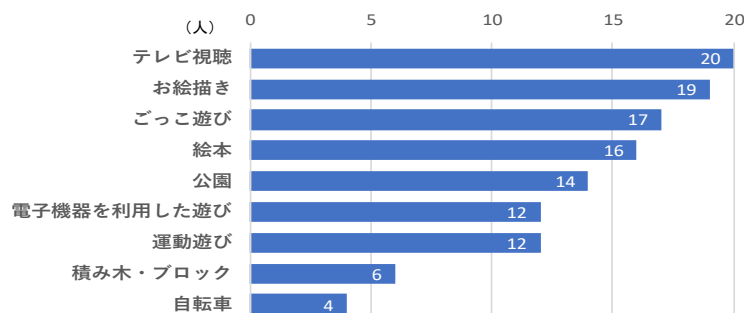
質問6 家庭で絵本や物語などの読み聞かせをしていますか



【考察】

「よくする」家庭が26%と低く、「あまりしていない」「まったくしていない」家庭が30%おり、絵本に親しむ機会が少ない家庭が多いことが分かる。読み聞かせの楽しさや大切さなどについて、学級通信を通して情報を発信し、家庭での読み聞かせの機会や意識を高められるようにしていきたい。

質問7 お子さんは、幼稚園以外ではどのような遊びをしていますか。
(複数回答可 → 総数 120)



【考察】

テレビ視聴や電子機器を利用した遊びの割合が大きいことを予想していたが、お絵描き、ごっこ遊び、絵本などの割合とほぼ変わらなかった。電子機器を利用した遊びに偏らなかったことはよい傾向といえる。

質問8 お子さんの言葉の育ちや伝え合うことに関して、難しさを感じていることやご家庭で取り組んでいることなどがありましたら、お聞かせ下さい。

上兄弟が使う言葉をなるべく家では使わないようにしています。できればきれいな日本語を覚えてもらうようにこころを配っています。
変な言葉を使う時にはどくらい意味で使っているのか聞いて正しい言葉で話せるようにしています。

こどもが話している言葉に主語がぬけたりしていたら、正しい文に言い直させている。

「言いかい、が悪くはないように身をつけていすが、時々かよくはない。」

【考察】

子どもがきれいな日本語や正しい言葉で話してほしいという家庭の願いがあることや、保護者自身が言葉を意識して接している家庭があることが分かった。言葉でのやりとりや美しい言葉やいろいろな言葉に触れ親しんだり表現したりする機会が必要であると考えられる。

④ 全体の考察

ア 良かった点

- (ア) 子どもの話を聞いたり話し合ったりする機会をつくることを意識している家庭が多い。
- (イ) 多くの子は、安心できる家庭において園での出来事や感じたことなどを自分の言葉で伝えられている。
- (ウ) 幼稚園以外の遊びは、スマートフォンやゲーム機等の電子機器を利用した遊びに偏りがなかった。

イ 課題点

- (ア) 少人数ではあるが、伝えたい思いはあるものの上手く言葉で伝えられずにいる子がいる。
- (イ) 間違った日本語を使う子や言葉遣いが悪い子がおり、きれいな日本語や正しい言葉で話してほしいと願う家庭の実態がある。
- (ウ) 絵本の読み聞かせをする機会が少ない家庭が多く、子どもが絵本や物語に親しむ機会が少ない。

上記の課題点を踏まえ、表3のように今後の取り組みについてまとめ、環境構成や援助として実践することにした。

表3 アンケートから見えた課題点を踏まえての取り組み

- ◎幼児が自分なりの言葉や豊かな言葉で表現することができるように、言葉を引き出す援助の工夫に努める。
- ◎友達と思いを伝え合うことを楽しめるような環境構成や援助の工夫に努める。
- ◎美しい言葉やいろいろな言葉に触れ、親しんだり表現したりすることのできるような援助の工夫に努める。

(2) 年間指導計画の作成

幼稚園教育要領解説では、「幼稚園生活を通して、個々の幼児が学校教育法における幼稚園教育の目標を達成していくためには、まず、教師が、あらかじめ幼児の発達に必要な経験を見通し、各時期の発達の特性を踏まえつつ、教育課程に沿った指導計画を立てて継続的な指導を行うことが必要である。」と記されている。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置きながら、発達の各時期にふさわしい生活や遊びが展開されるように、指導計画を作成することが大切である。

また、指導計画作成上の留意点として示されている内容から抜粋し、表4としてまとめた。

表4 指導計画作成上の留意点

- ① 発達の理解
ア 幼児一人一人の発達を捉え、幼稚園生活を見通して作成すること。
- ② 具体的なねらいや内容の設定
ア 幼稚園生活における幼児の発達の過程を見通し、幼児の生活の連続性、季節の変化などを考慮して、幼児の興味や関心、発達の実情に応じて設定すること。
イ その時期に幼児のどのような育ちを期待しているか、そのためにどのような経験を必要があるかなどを幼児の生活する姿に即して具体的に理解して設定すること。
- ③ 環境の構成
環境は、具体的なねらいや内容として取り上げた事柄を幼児が実際の保育の中で経験することができるように、適切な環境をつくりだしていくこと。

上記の留意点を踏まえた指導計画を作成し、実践につなげていく。

また、幼児のおおよその発達の時期を踏まえ、児童文化財を遊びや生活の中で活用し、言葉の育ちを促せるよう、児童文化財を活用した遊びの年間指導計画を作成した(表5)。

表5 児童文化財（絵本・童謡・わらべうた・言葉遊び・沖縄の民話）を活用した年間指導計画

期	I 期（4月～5月中旬）	II 期（5月下旬～7月）	III 期（9月～10月）
期の特徴	教師や友達との関わり合いを通して、園生活に親しみ、安定していく時期	園生活に慣れ、試したり、繰り返したりして遊びを発展させていく時期	皆で一緒に遊ぶことの楽しさや大切さを感じ、充実感を味わう時期
幼児の姿	・幼稚園に入園した喜びや期待もち、好きな遊びを楽しんでいる。一方、不安や緊張から涙を流す子がいる。 ・自分の思いを言葉で伝えられない子がいる。	・気の合う友達といろいろな遊びを楽しむ姿が見られる。 ・互いの主張がぶつかり合う中で、思いや考えを上手く言葉で伝えられない姿も見られる。	・生活経験が広がると同時に友達との会話が盛んになっている。 ・感じたり考えたりしたことをいろいろな方法で表現する姿が見られる。
言葉の育ち ねらい と内容	◎自分の思いや考えを言葉で伝えたり、相手の思いを聞いたりしながら遊ぶ楽しさを味わう。 ・感じたことや考えたことを自分なりの言葉で表現する。 ・先生や友達の話に興味をもって聞く。 ・遊びや生活の中で、言葉の響きの面白さや美しさに気付いたり、言葉のリズムの面白さ、心地よさを味わったりする。 ・絵本や物語などを興味をもって聞き、いろいろな言葉に触れたり想像したりする楽しさを味わう。 ・遊びや生活の中で文字の役割や意味を理解する。		◎ごっこ遊びや絵本の読み聞かせなどを通して、言葉の感覚やそれらを使う楽しさを知る。 ・感じたことや考えたことを様々な方法で表現する。 ・自分の意見を伝えたり、友達の考えを受け入れたりしながら遊ぶ。 ・言葉の微妙な変化や使い方、意味に気付き、遊びや生活の中に取り入れる。
□環境構成 ☆教師の 援助	☆温かい人間関係づくりに努め、安心して自分の思いを伝えたり相手の話を聞いたりすることができるようになる。幼児の思いを読み取り、尋ねたり言葉を補ったりして、言葉にできるようにする。 □お話に親しんだりイメージの世界を十分に楽しんだりできるように環境構成をする。 ☆遊びや生活の中で、幼児が言葉や体で表現しながら、リズムカルな言葉や繰り返しのリズムを楽しんだり、言葉の面白さや美しさ、様々な言葉に触れたりすることができるようになる。 ☆教師が豊かな言葉を使い、幼児との会話を楽しんだり、言葉の手本となったりする。		・お話づくりやごっこ遊びなど、友達とイメージを共有して遊ぶ楽しさが味わえるようにする。 ・幼児同士での言葉や動きでの伝え合いや表現を楽しめるよう、見守ったり、状況に応じて教師が言葉を添えたり補ったりしていく。 ・絵本の読み聞かせなどを通して、言葉の感覚や、言葉を使う楽しさを味わえるようにする。
絵本	・はらぺこあおむし ・ぐるんぱのようちえん ・ノントンぶらんこのせて ・もこ もこもこ ・きょだいなきょだいな ・わたしのワンピース ・おおきなかぶ ・ぐりとぐら ・そらいろのたね ・せんたくかあちゃん ・14 ひきのあさごはん ・おかあさんがおかあさんになったひ ・おたんじょうびおめでとう	・三びきのやぎのがらがらどん ・きいろいかさ ・おじさんのかさ ・ぞうくんのあめふりさんぽ ・おおかみと七ひきのこやぎ ・どろんこハリー ・おとうさんがおとうさんになったひ ・スイミー ・はじめてのおつかい ・おふろだいすき ・11 ひきのねこ ・へんしんトンネル ・あのやまこえてどこいくの ・だるまさんが	・よーいどん ・かにむかし ・おむすびころりん ・どうぞのいす ・しょうぼうじどうしゃじぶた ・ねずみのいもほり ・だんごどっこいしょ ・あっちゃんあがつくーたべものあいうえおー ・さる・るるる ・あいうえおのき ・ぶたたぬききつねねこ ・しりとり しましよ ・かいじゅうのこんだて ・ロボットカミイ
童謡 ・ 手遊び うた	・チューリップ ・せんせいとおともだち ・あくしゅでこんにちは ・むすんでひらいて ・ぶんぶんぶん ・こいのぼり ・おかあさん ・めだかのがっこう ・手をたたきましよう ・ことりのうた ・みどりの風と青い空	・あめふりくまのこ ・あまだれボタン ・かたつむり ・しゃぼんだま ・とけいのうた ・すてきなパパ ・かえるのがっこう ・セミ ・たなばたさま ・おばけなんてないさ ・アイスクリームの歌 ・まあるいいのち	・とんぼのめがね ・大きな栗の木の下で ・どんぐりころころ ・こおろぎ ・まつぼっくり ・むしのこえ ・くだものれっしゃ ・ふしぎなポケット ・いぬのおまわりさん ・森のくまさん ・手のひらを太陽に
わらべうた 遊び	・手をつなごう ・あがり目さがり目 ・げんこつ山のたぬきさん	・だるまさんがころんだ ・いっぽんばし ・なべなべそこぬけ ・ロンドン橋	・おちゃらかほい ・おてらのおしょうさん ・はないちもんめ ・十五夜さんのおもちつき
言葉遊び	・しりとり ・伝言ゲーム ・仲間集め（例：最初に「あ」のつくもの、最後に「か」のつくもの）		・同じ音の言葉（同音異義語）集め ・対義語集め
沖縄の歌 ・ 民話	・ていんさぐぬ花 ・ハブで一びる	・月桃の花 ・あしびなー ・エイサーのはじまり	・赤田首里殿内 ・唐船ドーイ ・じんじん ・クスクーの由来

期	Ⅳ期（11月～12月）	Ⅴ期（1～3月）
期の特徴	友達関係を深めながら、協力して遊びや活動を楽しむ時期	自分に自信をもち、友達と共に活動する充実感や小学校への期待を膨らませる時期
幼児の姿	・共通の目的に向かって、友達と考えたり工夫したりすることを楽しむ姿が見られる。 ・友達とのいざこざの中で、教師に頼らず、自分達で解決しようとする姿が見られる。 ・友達と相談したり役割分担をしたりして遊ぶ姿が見られる。	・年賀状やお年玉をもらった経験や正月遊びから、文字や数字への興味・関心が高まっている。 ・友達を誘って、正月ならではの遊び（かるた、すごろく、独楽など）を楽しみ、簡単なルールを決めて競ったり工夫したりして遊び込む姿が見られる。 ・就学への期待が高まり、小学校の話題が多くなっている。
言葉の育ち ◎ねらい ・内容	◎共通の目的に向かって友達とイメージを出し合いながら協力して遊びを進めていく充実感を味わう。 ・友達とイメージを伝え合いながら遊ぶ楽しさを味わう。 ・生活の中でイメージを豊かにし、感じたことや考えたことをいろいろな方法で表現することを楽しむ。 ・言葉遊びを楽しみ、遊びや生活に取り入れて遊ぶ楽しさを味わう。	◎遊びや生活の中で文字や言葉などで伝え合う楽しさを味わう。 ・相手の話を興味をもって聞いたり、自分の考えを相手に分かるように伝えたりする。 ・遊びや生活に必要な文字に興味をもち、読んだり書いたりする。 ・絵本や物語に親しみ、友達とイメージを伝え合う楽しさを共有する。 ・伝統的な遊びを通して、文字や数量・図形に興味や関心をもつ。 ・感じたことや考えたことを自信をもって言葉で伝える楽しさを味わう。
□環境構成 ☆教師の援助	□豊かな想像の世界が広げられるように、幼児の発達を見通した様々な絵本や物語を準備する。 ☆友達と一緒に活動しながら、自分の思いを表現する喜びや楽しさを感じられるように、一人一人の思いを捉え、目的が達成できるようにしていく。 ☆イメージを共有し合い、動きや言葉で表現したり、演じて遊んだりする楽しさを繰り返し味わえるようにする。	☆遊びの中で文字や数、言葉に触れ、興味や関心をもてるようにし、就学に期待がもてるようにする。 ☆様々な文字や数遊びができるように環境を整えたり、文字や数、絵を使って伝えることを楽しむ経験ができるような遊びや活動を取り入れたりする。 □幼児が自由に絵本を読んだり文字を書いたりすることができるよう、環境を整える。
絵本	・モチモチの木 ・てぶくろ ・ごきげんのわるいこっくさん ・もりのなか ・しょうぼうじどうしゃじふた ・からすのばんやさん ・さみしがりのさんたさん ・ガンピーさんのふなあそび ・ぱんつくったよ ・かいじゅうたちのいるところ	・十二支のはなし ・はなのすきなうし ・てがみをください ・ちいさいおうち ・エルマーのぼうけん ・しりとりさんぽ ・十二支のはやくちことばえほん ・ランドセルがやってきた ・もうすぐ一年生
童謡 ・手遊び うた	・まっかな秋 ・やきいもグーチーパー ・ちいさい秋みつけた ・コンコンクシャンのうた ・山の音楽家 ・お正月 ・花さき山 ・あわてんぼうのサンタクロース ・ジングルベル ・赤鼻のトナカイ ・線路は続くよどこまでも	・たこ ・やぎさんゆうびん ・十二支の歌 ・あいうえおのうた ・ゆき ・数字の歌 ・ゆきのこぼうず ・たきび ・おにのパンツ ・豆まき ・カレーライスのうた ・うれしいひなまつり ・ドキドキドン！一年生 ・いちねんせいになったら ・おもいでアルバム
わらべうた	・ごんべさんの赤ちゃん ・いちじくになじん ・ずいずいずっころばし ・かごめかごめ ・あぶくたった	・あんたがたどこさ ・ことしのぼたん
言葉遊び	・スリーヒントクイズ ・逆さ言葉遊び	・早口言葉 ・以心伝心ゲーム ・連想ゲーム ・なぞなぞ
沖縄の歌 ・民話	・おおきなわ（おきなわ数え歌） ・ハイサイシーサー ・子ぬ方星の由来	・おにムーチャー

VII 研究実践

1 活動指導計画

(1) 児童文化財を活用して、言葉の感覚を豊かにしていく。(日々の保育での活動)

	回	◎ねらい ○内容	活動内容	☆教師の援助□環境構成
児童文化財を取り入れた遊びを楽しむ・言葉の感覚を豊かにしていく過程 (友達と一緒に遊びを通して言葉の響きやリズム、面白さを味わう)	わらべうたに親しもう	◎わらべうた遊びを楽しみながら、言葉のリズムの面白さや心地よさを味わう。 ○友達と一緒にわらべうた遊びを楽しむ。 ○歌ったり体で表現したりし、言葉のリズムや心地よさ、面白さを楽しむ。	◇わらべうた遊びを楽しむ。 ・いっぽんばし ・おちゃらかほい ・ずいずいずっころばし ◇振り返りをする。 ・感じたことや思ったことを伝えたり、聞いたりする。	☆皆で歌いながら、わらべうたのリズムの心地よさ、友達とふれ合う楽しさを感じられるようにする。 ☆幼児のアイデアを遊びに取り入れ、体でリズムを感じながらいろいろな言葉を使って表現できるようにする。
	ペープサートで遊ぼう	◎イメージしたものや考えたことを言葉で表現する。 ○一つ一つの言葉から答えを予想し、イメージを楽しむ。 ○友達や教師の話を興味をもって聞く。	◇言葉遊びを楽しむ。 ・私はだれでしょう ◇友達とクイズ楽しむ。 ・ペープサートに絵を描き、クイズを考えたりする。 ・作ったペープサートを使ってクイズを楽しむ。 ◇振り返りをする。 ・感じたことや考えたことを伝えたり、聞いたりする。	☆始めにペープサートやカードを取り入れることで、どの子もイメージしやすく皆で楽しめるようにする。 ☆幼児が相手の話をじっくり聞いたり分かりやすく伝えたりしながら、教師や友達との言葉のやりとりを楽しめるようにする。
	お話の世界を楽しもう	◎指人形や絵本のお話に興味をもち、想像したり表現したりする楽しさを味わう。 ○指人形や絵本のお話に興味をもち自分なりに想像を楽しむ。 ○絵本の読み聞かせを通して、お話の世界を楽しみつつ、いろいろな言葉に触れる。 ○ペープサートを通して、役になりきったり自分の気持ちを表現したりして友達と会話のやりとりやごっこ遊びを楽しむ。	◇指人形話『カラスの親子』や絵本の読み聞かせに興味を楽しむ。 『からすのぼんやさん』 ・じっくりと耳を傾けながら、想像したり絵本の中の言葉に触れたりして、お話の世界を楽しむ。 ◇絵本のお話からイメージしたものを言葉やペープサートで表現する。 ◇ペープサート遊びを楽しむ。 ・友達とペープサートを使って会話のやりとりなどごっこ遊びを楽しむ。 ◇振り返りをする。	□和やかな雰囲気の中で読み聞かせをすることで、幼児がお話をじっくり味わいながら、絵と言葉からイメージしたり、想像したりすることを楽しめるようにする。 ☆一人一人が自分の感じたままを表現し、イメージや遊びがつながるよう、幼児のつぶやきや動きを見逃さずに丁寧に受け止めていく。 ☆幼児の様々な表現を大切に受け止め、表現することの楽しさを共感する。 ☆ごっこ遊びを通して、友達と動きや言葉のやりとりを楽しめるように配慮する。

(2) 検証保育指導計画 (13 時間)

	回	◎ねらい ○内容	活動内容	☆教師の援助□環境構成
劇ごっこを楽しむ(友達と一緒に言葉のリズムや様々な表現を楽しむ、イメージを共有する面白さを感じる)	1	◎絵本に興味をもって聞き、友達と一緒に想像したり、表現したりする楽しさを味わう。 ○絵本に親しみ、興味をもって聞く。 ○みんなで登場人物の気持ちを考える。 ○体でリズムを感じながら、言葉を使って表現する楽しさを味わう。	◇絵本「おおきなかぶ」の読み聞かせを楽しむ。 ◇物語を皆で追い読みし、声に出してのびのびと表現する。 ◇登場人物の気持ちやかぶの大きさなどについて話し合う。 ◇言葉と動作でリズムミカルな言葉や繰り返しのリズムを楽しむ。	□落ち着いた雰囲気の中で、静かにお話を耳を傾けられるようにする。 ☆友達と一緒に声に出しながら、言葉のリズムやお話の面白さが感じられるようにする。 ☆絵本の登場人物やかぶの大きさなどについて話し合い、自分の生活や体験と照らし合わせたり想像したりしながら、イメージを広げられるようにする。 ☆言葉や体で表現することで、リズムミカルな言葉や繰り返しのリズムを楽しめるようにする。
	2	◎イメージしたり考えたりしたことを自分なりに言葉や動作で表現する楽しさを味わう。 ○友達の話に耳を傾けたり、感じたことや考えたことを自分なりに言葉で伝えたりする。 ○お話の世界にひたり楽しみながら、自分なりの言葉や動きでの表現を楽しむ。	◇絵本『おおきなかぶ』の追い読みを楽しむ。 ◇やりたい役を決める。 ◇友達と劇ごっこを楽しむ。 ・登場人物になりきり、表現を楽しむ。 ◇振り返りをする。 ・気付いたことや感想を伝え合う。	☆のびのびと声に出しながら、言葉のリズムやお話の面白さが感じられるようにする。 ☆一人一人の表現を認め、教師も一緒にやってみることで、幼児が登場人物になりきって自分なりの表現を楽しめるようにする。 ☆友達とイメージを伝え合う場面を捉え、認めたり、共有したりする。 ☆友達と一緒に声を出して遊ぶことで、繰り返しの言葉やリズムの楽しさが味わえるようにする。
劇遊びを楽しむ(2組オリジナルの劇づくりを楽しむ、自分のイメージやアイデアを伝え合う楽しさを味わう)	3	◎友達とイメージを膨らませながら、劇ごっこに必要なことを考えたり伝え合ったりする。 ○友達や教師の話に興味をもって聞く。 ○自分なりの考えや思いを言葉で伝える。	◇友達や教師とどんな劇にしたいか思いを伝え合う。 ・2組オリジナルの登場人物について考えを伝え合う。 ・今まで経験した遊びや活動の中から、劇遊びに入りたいものなどを考える。 ・劇遊びに必要なものなどを考える。	☆幼児の提案やつぶやきに耳を傾け、共感的に聞きながら、話し合いの場での一人一人を認めるよいモデルとなるようにする。 ☆幼児の提案に、言葉を添えたり補ったりすることで、皆でイメージを共有できるようにする。
	4 5	◎発表会で劇遊びを発表することを知り、期待をもつ。 ○自分のイメージを伝えたり、友達の考えに興味をもって聞いたりする。 ○友達と役について(特徴を)話し合いながら、イメージを広げたり共有したりする。	◇友達と相談して役を決める。 ◇グループで役について考えたり、言葉や体で表現したりする。 ◇自分の役をイメージしながら、お面や小道具の製作をする。 ◇友達と一緒に劇に必要な物を考える。	☆それぞれの役のイメージについて、具体的な言葉(優しい・強い・可愛い・足が速い・おっとり・大きい・小さいなど)を提示、発問し、イメージを共有しやすいようにする。 ☆幼児同士での言葉や動きでの伝え合いや表現を楽しめるよう、見守ったり、状況に応じて教師が言葉を添えたり補ったりして、やりとりをつなげていく。 ☆幼児がイメージしたものを表現できるように、教材を準備しておく。(大きさや素材を選べるようにする)

	回	◎ねらい ○内容	活動内容	☆教師の援助□環境構成
劇遊びを楽しみながら、友達と一緒に共通の目的のびのびと表現を楽しむ	6	◎生活発表会に期待をもち、友達とイメージを広げながら、言葉や動きで表現する楽しさを味わう。 ○友達とセリフや動きを考えたり、表現したりする。 ○互いの考えを伝え合うことで、いろいろな表現があることに気付く。	◇グループ毎にセリフや動きでの表現の仕方を話し合う。 (役になりきる) ◇いろいろな場面において、どんな気持ちでセリフを言った方がよいか、みんなで考える。 ◇友達と一緒に役になりきって劇遊びを楽しむ。 ◇リズムをとりながら、楽しくセリフを言う。	□幼児がイメージしたものを表現できるように、道具や用具、素材を用意し、幼児と共に環境を整える。 ☆相手の話に耳を傾け、気持ちや考えなどに気付こうとする気持ちがもてるように言葉かけをする。 ☆一人一人の表現を認めたり共感したりすることで、幼児が登場人物になりきって自分達なりの表現を楽しめるようにする。 ☆友達とイメージを伝え合う場面を捉え、認めたり他児に広げたりする。 ☆友達と声に出して表現することで、繰り返しの言葉のリズムの楽しさが味わえるようにする。
	8 9 公開 検証 保育	◎友達とイメージを広げたり共有したりしながら、言葉や動きで表現する楽しさを味わう。 ○友達とイメージやアイデアを出し合いながら遊びを進める。 ○友達とイメージを共有しながら表現する楽しさを味わう。 ○相手の話や表現に興味をもって聞いたり見たりする。	◇グループの友達とアイデアを出し合いながら劇遊びを楽しむ。 ・自分の役のセリフや出番が分かり、進んで劇遊びに取り組む。 ◇他のグループの発表を見たり聞いたりする。 ◇振り返りをする。 ・劇遊びを振り返り、感じたことを伝え合う。	□各グループの場所を設けることで、のびのびと活動が進めやすいようにする。 ☆幼児同士での伝え合いを楽しめるよう、見守ったり、状況に応じて教師が言葉を添えたり補ったりして、やりとりをつなげていく。 ☆それぞれの表現を認めたり共感したりすることで、友達と一緒に、自分達が考えたセリフや動きで表現できるようにする。 ☆友達の話や発表に興味をもって見たり聞いたりする場を通し、いろいろな表現があることに気付かせる。
友達と協力しながら表現劇を楽しむ(役になきって、言葉や動きで表現したり、自信をもって演じたりする楽しさを味わう。)	10 11 12	◎共通の目的に向かって意欲的に練習に取り組みながら、友達とイメージや思いを通わせる楽しさを味わう。 ○友達と一緒に劇遊びをする楽しさやみんなできなことがあることを知り、協力して頑張る気持ちをもつ。 ○自分達なりの言葉や動作でのびのびと表現することを楽しむ。	◇友達と協力しながら、意欲的に練習に取り組む。 ◇友達と教え合ったり、互いの良いところを認め合ったりしながら、劇遊びを進めていく。 ◇役になりきり、のびのびと表現することを楽しむ。	□子ども達のいろいろなイメージが実現できるよう、道具や用具、素材を用意し、表現できるようにする。 ☆自分の考えを主張したり、友達の思いを受け入れたりしながら、発表会に向けて意欲的に劇づくりを進めていくことができるよう、見守ったり励ましたりしていく。 ☆友達の良さに気づき、一緒に活動する楽しさが味わえるようにする。 ☆幼児一人一人の頑張りや表現を捉え、伝えたり共感したりすることで、自信をもって表現することができるようにする。
	13	◎友達や教師と心をつなげてつくり上げた劇遊びを、みんなで力を合わせてやり遂げた喜びや満足感を味わう。	◇生活発表会に参加する。 ・みんなで心をつなげて、のびのびと役になりきって表現を楽しむ。	☆発表会後に、振り返りの場を設け、皆で考えを出し合いながら劇づくりに取り組んできた過程を伝え、協力してやり遂げた喜びや満足感が味わえるようにする。

2 活動の概要

【日々の保育での活動】児童文化財を活用して、言葉の感覚を豊かにしていく

○幼児の姿	☆教師の援助 □環境構成
[わらべうたで遊ぼう] ・いっぽんばし・おちゃらか・ずいずいずっころばし ○わらべうたに興味をもち、友達との触れ合いを喜びながら、わらべうた遊びを楽しむ姿が見られた（写真1）。 ○わらべうたの歌詞の意味を聞くことで、言葉の意味を理解しながら、歌と動きで遊びを楽しむことができた。 ○歌ったり体で表現したりしながら、言葉のリズムや心地よさ、面白さを楽しんでいた。 ○自分なりの表現を友達と一緒に楽しむ姿が見られた。 I児「今度は、勝った時はこう！（両手でガッツポーズ）」 Y児「うん。いいね。」 教師「ガッツポーズいいね。嬉しそうだね。」 Y児「負けた時、こうは？（両手で×を作る）」 I児「おー！いいね。」 写真1 写真2 ○皆で遊んだ後も、園生活の中で、繰り返し自然に友達とわらべうた遊びを楽しむ姿が見られた（写真2）。	☆はじめは、教師がリードしながら皆で歌い、わらべうたのリズム、楽しさを感じられるようにした。 ☆たたく・つねる・なでるなど、歌に出てくる言葉の意味を皆で確認することで、どの子も言葉と動きを理解して遊びを楽しめるようにしていった。 ☆教師も遊びに加わり、言葉や動作でのやりとりを楽しめるように援助し、一緒に楽しさを共有していた。 ☆幼児の考えを遊びに取り入れることで、幼児が友達と一緒にアイデアを出し合い、体でリズムを感じながらいろいろな動きで表現する楽しさを味わえるようにした。
[ペープサートで遊ぼう] ○友達や教師の話に興味をもち、相手の話をよく聞いて、クイズを楽しむ姿が見られた。 ○教師の一つ一つの言葉（ヒント）から答えを予想したり、イメージしたりすることを楽しんでいた。 ○生活の中でのイメージや体験したことがらから言葉でヒントを考えて出題者になったり、自分なりのイメージや言葉で表現したりしながら解答していた（写真3・4）。 写真3 写真4	□始めにペープサートを取り入れることで、どの子も視覚でイメージしやすく皆で楽しめるようにした。 （片面には「？」、もう片面には答えを絵と文字をかけたもの） ☆幼児が相手の話をじっくり聞いた後、分かりやすく伝えたりしながら、教師や友達との言葉のやりとりを楽しめるようにした。
[お話の世界を楽しもう] ○指人形や絵本に興味をもち、耳を傾けながらお話の世界を楽しむ姿が見られた。 ○絵本のお話の展開を楽しみながら、思ったことや想像したことを思わず口に出して言ったり、リズムカルな言葉を真似て言ったりする姿も見られた。 ○お話が長かったこともあり、途中で集中が切れてしまう子や飽きてしまう子もいた。	□和やかな雰囲気の中で指人形話や読み聞かせをすることで、お話の世界を楽しみ、絵と言葉から内容をイメージしたり、想像したりすることを楽しめるようにした。 ☆教師も一緒に遊びに加わり、会話のやりとりを楽しんだり、思ったことを言葉で表現したりできるようにした。

○ペープサートを使って、絵本のお話をイメージしながら友達とやりとりを楽しむ姿や、ペープサートを媒介として自分の気持ちを表現して会話を楽しんだりする姿が見られた(写真5)。  写真5 ○中には、友達とのやりとりを恥ずかしがる姿や、何をどう話してよいか戸惑う姿も見られた。	☆幼児の様々な表現を受け止め、教師も一緒にやってみたり、共感したりしながら、友達とのやりとりを楽しめるように配慮する。 ☆恥ずかしそうにしている子や普段口数が少ない子には、教師が個別に関わり、遊びを通して言葉を引き出し、少しでも会話を楽しんだりできるようにした。
--	---

【検証保育(1)～(2)】劇ごっこを楽しむ(友達と一緒に言葉のリズムや様々な表現を楽しみ、イメージを共有する面白さを感じる)

○幼児の姿	☆教師の援助 □環境構成
○絵本に親しみをもって聞き、教師の後に続きながら声に出して追い読みを楽しんでいた。 ○自分のやってみたい役を選び、友達と一緒に役になりきって楽しむ姿が見られた(写真6)。 ○教師や友達と一緒に、「うんとこしょ どっこいしょ」のリズミカルな言葉や繰り返しのリズムを言葉や体で表現する遊びをのびのびと楽しむ姿が見られた(写真7)。  写真6  写真7 ○自分のやりたい役を決め、役になりきりながら遊び、「またやりたい」という子が多く見られた。 R子「あ～面白かった！次は猫をやってみたい。」 教師「そうだね。みんなでやって面白かったね。」 K児「カブも作ったら！？」 K子「衣装もあったらいいな。」 という言葉もあがり、お話に興味をもち、子ども達なりに劇ごっこでのイメージを広げ伝え合う姿が見られた。	□絵本のお話の世界をじっくりと楽しめるよう、落ち着いた雰囲気の中で読み聞かせをする。 ☆追い読みを通して絵本の中の言葉を声に出して言うことで、繰り返しの言葉やお話のテンポの面白さを体で感じられるようにした。 ☆絵本の登場人物やかぶの大きさなどについて皆で話し合うことで、お話のイメージを広げ、深められるようにした。 ☆皆で、「うんとこしょ どっこいしょ」の言葉を、声や体で表現することで、リズミカルな言葉や繰り返しのリズムの面白さを味わえるようにした(写真8)。  写真8

【検証保育(3)～(5)】劇遊びを楽しむ(2組オリジナルの劇づくりに興味をもち、自分なりのイメージやアイデアを伝え合う楽しさを味わう)

○幼児の姿	☆教師の援助 □環境構成
☆2組オリジナルの劇遊びをどんな劇にしたいか話し合う中で、子ども達なりに考えたりやたってみたいことのイメージを広げる姿が見られた(写真9)。 登場人物についての話し合いでは、 M子「ユニコーンがいいな。」 N子「いいね！」 K子「サンタもいいな。」 教師「サンタも面白いね。」 K児「じゃあ、トナカイも一緒にいいんじゃない。ソリに乗って。」 R子「わあ！いいね～！」  写真9	☆一人一人の提案やつぶやきに耳を傾け、共感的に聞くようにすることで、幼児が安心して自分の気持ちや考えを伝えられるように努めた。 □自分の役や役のイメージが意識できるように、役ごとの表示を製作した。表示にセリフ欄を設けることで、自分達で相談して決めてたセリフがすぐに書き込めるようにセリフの書き込み欄を設けた。また、セリフ欄はホワイトボード式にすることで、子ども達同士での変更があった際にその場で訂正できるようにした(写真11)。

☆発表会に向けての話し合いの中で、これまでの園生活の中で遊んだり歌ったりしたこととお父さんお母さんに見てもらいたいということになり、子ども達から意見がでた「わらべうた」や「手遊び」なども劇の中に組み込み、皆で発表することにしていった。

☆友達と相談して役を決め、グループ毎にどのような役にしていきたいかなど役のイメージやセリフを話し合っていた(写真10)。

R子「『ロボットさん、手伝ってちょうだい』って言うのは？」

教師「何を手伝ってほしいのかな？」

M子「あ！『大きなカブが抜けないから、手伝ってちょうだい』って言った方がいいかも！」

I子「こうやって言うのは？」

(両手を合わせるポーズをしながら)

教師「いいね。“お願い”って気持ちが伝わってくるね。」



写真10

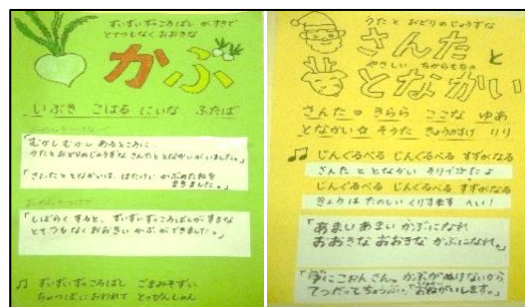


写真11

☆幼児の提案に、言葉を添えたり補ったりすることで、皆でイメージを共有できるようにしていった。

□お面やカブなど、幼児がイメージしたものを表現できるよう、教材を準備しておく。

【検証保育(6)～(9)】劇遊びを楽しむ(友達と一緒に共通の目的に向かって、考えを伝え合いながら、言葉や動作でのびのびと表現を楽しむ)

○幼児の姿

☆役ごとのグループで決めたセリフを、どのような口調や動きにしたなら、役らしく見えるか考えたり、実際に動いたりしながら、友達と考えを伝え合う姿も見られていった(写真12・13)。



写真12



写真13

〔ユニコーングループ〕

I子「出て行く時は手でこんなふうにしたら？」

(両手を上下させて翼を表現しながら)

M子「いいね。そうしよう。」

みんなでうなずき、その後、動いて表現して確認する姿が見られた。

〔ロボットグループ〕

K児とR児がロボットになりきって歩いている。

教師「KさんとRさん、ロボットそっくり。本物のロボットに見えるね。」

「見て見てSさんとYさん。KさんとRさんの手と足、どうなっている？」

S児「固まってる。」

教師「そうだね、ブラブラしていないから、ロボットらしいね。」「先生もやってみようかな。」

教師も交じり、グループの皆で動いて遊んでいった。

☆教師の援助 □環境構成

□各グループの場所を設けることで、話し合いがしやすいようにする(写真14)。



写真14

☆友達とイメージを伝え合う場面を捉え、認めたり他児に広げたりする。

☆幼児同士での伝え合いを楽しめるよう、見守ったり、状況に応じて教師が言葉を添えたり補ったりして、やりとりをつなげていく。

☆一人一人の表現を認めたり共感したりすることで、幼児が登場人物になりきって自分達なりの表現を楽しめるようにした。



写真15

☆幼児同士のやりとりを全体で紹介することで、他のグループの友達の取り組みや気持ちが分かり、よい刺激となるようにした(写真15)。

3 公開検証保育指導案

公開検証保育指導案

令和元年 12 月 9 日（月）
沖縄市立北美幼稚園対象学級
男 14 名 女 16 名 計 30 名
保 育 者 宮 城 喬 子

(1) 活動名：「劇遊びを楽しもう！」（9／13）

(2) 活動の目標

友達とイメージを広げたり共有したりしながら、言葉や動きで表現する楽しさを味わう

(3) 活動のねらい〔幼稚園教育要領解説 総説：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿〕

- ① 先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。〔(9) 言葉による伝え合い〕
- ② 心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。〔(10) 豊かな感性と表現〕

(4) 本活動における指導内容〔幼稚園教育要領解説 ねらい及び内容：各領域に示す事項〕

- ① 先生や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする。〔言葉（1）〕
- ② したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。〔言葉（2）〕
- ③ 生活の中で必要な言葉が分かり、使う。〔言葉（5）〕
- ④ 生活の中で言葉の楽しさや面白さに気付く。〔言葉（7）〕
- ⑤ いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。〔言葉（8）〕
- ⑥ 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。〔人間関係（6）〕
- ⑦ 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。〔表現（8）〕

(5) 活動設定の理由

① 教材観

絵本は、子どもが手にとり自分のペースでお話の世界に楽しんでいける豊かな文化財である。学級全体の読み聞かせは、文化に親しみ豊かな感性を育む大切な機会となる。皆で同じ絵本を見たり聞いたりすることにより、一体感を味わったり、言葉とイメージと物語を皆で共有することができる。物語の世界を十分に楽しんだ子ども達は、様々な感じとったことを言葉や動きで表現するようになっていく。また、言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉の感覚が豊かになり、語彙が増え、お話をつくる等、想像力の豊かさにつながっていく。

劇遊びは、物語の流れや内容を理解しながらイメージをもち、共感し合い、そのものになりきって言葉を交わし、表現して楽しむことができる。

本活動では、遊びや生活に取り入れながら、グループの友達と思いや考えなどを伝え合い、イメージを共有して劇遊びを進めていく。

② 幼児観

学級の実態として、絵本や紙芝居、わらべうた遊びに興味があり、楽しむ子が多い。また、自分なりにお話の世界を楽しみ、気付いたことや考えたことを教師や友達に言葉で伝えたり、表現したり、ごっこ遊びを楽しむ姿が見られる。

これまでの活動の中で、自分の考えたことを言葉で伝えたり表現したりして楽しむ子がいる。しかし、一方では、恥ずかしがり上手く言葉で表現できず戸惑う子、一方的に話し、相手の話を聞こうとしない子などの姿も見られ、言葉のやりとりに課題が見られる。

そこで、本時では、幼児が互いに思いや考えなどを自分なりに表現しながら劇遊びを進めていく過程で、友達との言葉のやりとりの楽しさや面白さに気付いたり、イメージを共有したりしながら、言葉や体を使って表現する楽しさを味わうことができるような活動にしていきたい。

③ 指導観

ア 劇遊びや話し合いの場を通して、相手の話に興味をもって聞いたり、自分の考えや感じたことなどを自分なりの言葉で伝えたりする楽しさを味わえるようにする。

本活動では、イメージを言葉や動きで伝えたり表現したりして遊ぶ劇遊びを通して、教師は、子どもの思いをくみ取りながら話を引き出し、言葉を補ったり、代弁したりしながら、子ども達が自分の思いや考えを言葉で表現し、伝えていくことができるよう援助していきたい。また、友達や教師の話に興味をもって聞き、自分と違う考えをもっていることに気付く等、相手の思いを分かろうとする機会となるよう意識したい。

イ 友達や教師とのやりとりを通して、言葉の楽しさや面白さに気付けるようにする。

友達と思いや考えを伝え合いながら、遊びや生活を進める楽しさや喜びを味わうことができるようにするためには、幼児が生活の中で言葉の響きやリズム、新しい言葉や表現などに触れてこれらを使う楽しさを味わえるよう援助していくことが必要である。友達との言葉や動きでのやりとりを通して、いろいろな言葉にふれたり、面白さを感じられるよう、教師も一緒に遊びに参加しながら、見守ったり共感したりし、援助していく。また、その中で、皆で同じ世界を共有する楽しさや心を通わせる一体感を感じることができるようにしていきたい。

ウ 友達の思いや考えを聞いたりすることを通して、友達とイメージを共有して表現する楽しさを味わえるようにする。

イメージを共有するには、友達の話す言葉をよく聞いて理解していく必要がある。互いの思いを理解し、共有することで、遊びがより楽しくなっていく。友達と心を通わせ、遊びの中で言葉を使う楽しさや自分なりの表現を育めるようにしていきたい。自分なりに考えたイメージを言葉で伝えたり、友達の思いや考えを聞いたりできるような場の工夫を行い、共感し合ったりイメージを共有し合えるようにし、そのイメージを自分なりに言葉で表現する楽しさや伝わる嬉しさが味わえるよう援助していきたい。

(6) 本時の指導案

本時			令和元年 12 月 9 日（月）	
幼児の姿	・生活発表会に期待をもち、友達と相談しながら、2組オリジナルの劇づくりを楽しむ姿が見られる。 ・『おおきなかぶ』の劇ごっこでは、登場人物になりきり、「うんとこしょ どっこいしょ」の言葉の響きの面白さを感じながらリズムを体で表現することを楽しんでいる。 ・自分の考えを一方向的に話す子、恥ずかしさや不安から自分の気持ちを言葉で伝えることが難しい子の姿が見られる。			
ねらい	◎友達とイメージを広げたり共有したりしながら、言葉や動きで表現する楽しさを味わう。	内容	○相手の話を興味をもって聞いたり、自分の考えやアイデア、感じたことを言葉で伝えたりする。 ○友達とのやりとりの中で言葉の楽しさや面白さに気付く。 ○友達とイメージを共有して表現する楽しさを味わう。	
活動仮説	劇遊びにおいて、言葉をつけ加えたり、尋ねたり、引き出したりする援助の工夫をすることで、イメージが相手に伝わり共有し、楽しみながら言葉や動きで表現することができるであろう。			
時間展開	◇予想される幼児の活動 ○体験させたい内容	☆教師の援助 □環境構成		
9:30 導入	◇これまでの活動を振り返る。 ○教師や友達の話に興味をもって聞く。 ◇活動のめあてを確認する。 めあて 友達とアイデアを出し合いながら、劇遊びを楽しもう。	□教師や友達の話に興味をもって耳を傾けることができよう、落ち着いた雰囲気づくりをする。 ☆これまでの遊びや活動について振り返りながら、幼児が劇遊びに期待をもって取り組めるようにする。 ☆それぞれの役らしく見えるようにするためにはどうしたらよいか友達とアイデアを出し合えるよう援助する。		
9:40 展開	◇グループの友達とセリフの表現の仕方を考えたり、劇遊びを楽しんだりする。 ○自分の考えたことを伝えたり聞いたりしながらイメージを広げる。 ○その役になりきってセリフや動きで表現することを楽しむ。 ◇他のグループの表現を見たり聞いたりする。 ○グループで考えたセリフや動きを友達の前で表現する。 ○友達の言葉や表現に興味をもって、見たり聞いたりする。	□グループの友達と話し合いしやすいように、集まる場所を設ける。 ☆幼児同士で考えを伝え合えるよう、状況に応じて教師が言葉を添えたり、補ったり、尋ねたりして言葉を引き出し、幼児同士のイメージを共有できるようにする。 ☆友達とイメージを共有し幼児なりの言葉でのびのびと表現できるよう、それぞれの表現を認めたり共感したりする。 ☆各グループのよさを認めたり伝えたりしながら、工夫した方がよい点を、幼児が気付けるような言葉かけをすることで、自分達で工夫していくことができるようにする。 ☆皆の前で表現することを通して、友達や教師に認められる経験をすることで、喜びや充実感を味わうことができるようにする。 ☆不安そうにしている子には、安心して発表できるように言葉かけをし、表現できるようにする。		
10:15 まとめ	◇今日の活動を振り返る。 ○友達や教師の話を興味をもって聞き、友達の思いや考えに気付く。	☆幼児なりに言葉で表現をしている姿を捉え、共感することで、幼児が言葉で伝えることの楽しさや受け入れられる嬉しさを感じられるようにする。 ☆幼児が友達の話に興味をもって聞くことができるよう言葉かけをすることで、いろいろな考えや思いに触れることができるようにする。 ☆劇遊びを振り返り、感じたことを伝え合うことで、明日の活動につながりや期待がもてるようにする。		
反省評価	・幼児の思いや考えを引き出し、友達とイメージを共有できるような援助がされていたか。 ・幼児なりの言葉や動きでの表現を楽しむことのできる環境構成がされていたか。 ・幼児が楽しく関わられるような教材（劇づくり）であったか。			

4 公開検証保育の様子

これまでの保育を振り返り、めあてを確認する場面

教師の援助・環境構成

☆これまでの活動を振り返りながら、今日の活動のめあてを具体的に示し、皆で確認し共有することで、友達と目的や見通しをもちながら取り組めるようにする。

また、今日の活動のめあて「友達とアイデアを出し合いながら、劇遊びを楽しもう！（それぞれの役らしく見えるようにするためにはどうしたらよいか：役らしい動き・セリフの言い方）」にあたって、教師が例を挙げそれらしい動きや言いかたを見せたり言ったりすることで、どの子も役らしさに対してイメージがもてるようにする（写真16）。

☆先日のあるグループのエピソードを伝えながら、自分なりの思いや考えを伝えることや友達と協力したりすることの大切さに気付かせていく。

幼児の姿

○教師や友達の話に興味をもって聞き、教師の問いかけに答えたりしていた（写真17）。

○役らしさについて、笑ったりうなずいたりしながら教師の動きを見たり話し方を聞いたりし、イメージを共有する姿が見られた。



写真 16



写真 17

グループの友達と役らしい動きやセリフの表現の仕方を考えながら、劇遊びを楽しんだりする場面

教師の援助・環境構成

☆グループ毎に集まる場所を設け、幼児同士が話しやすい環境づくりをする。

☆幼児なりの言葉でのびのびと表現できるよう、それぞれの表現を認めたり共感したりする。

幼児の姿

○自分なりにイメージした役らしい動きや動作を言葉や身ぶりで友達に伝えている。その中で違う意見が出た際は、多数決やグループの全員でその動作をやってみて決めるなど、折り合いをつけながら自分達で話し合い、活動を進める姿が見られた（写真18・19）。

○自分なりのイメージを上手く言葉で伝えられない子や集中が切れて途中でふざけてしまう子がいるなど、話し合いが中断してしまうグループもあった（写真20）。



（ユニコーンの歩き方）
ジャンプしたい人、手をあげて！

写真 18



写真 19



写真 20

教師の援助・環境構成

☆状況に応じて教師が言葉を添えたり補ったりして、イメージをつなげ共有しできるようにしていく。
また、教師も一緒に話し合いに加わり、幼児のイメージや言葉を引き出せるようにする。

グループで考えたセリフや動きを友達の前で表現する
友達の言葉や表現に興味をもって、見たり聞いたりする場合

教師の援助・環境構成

- ☆幼児なり皆の前で表現し、友達や教師に認められる経験をすることで、喜びや充実感を味わうことができるようにする。
- ☆不安そうにしている子には、教師が側で寄り添い、安心して発表できるように言葉かけをする。
- ☆発表者は、グループで話し合って決めたことを伝えてから表現するようにし、教師が幼児の言葉を引き出したり補ったりする援助をすることで、工夫したところやグループのイメージを全体で共有できるようにする。また、発表者以外の子は、友達の工夫しているところや良いところを見つけられるような言葉かけをしておき、友達のよさに気付けるようにする。

幼児の姿

- 少し恥ずかしがる子もいたが、グループの友達と一緒にすることで、幼児達なりに身ぶりや言葉で表現する姿が見られた(写真 21・22)。
- ぞうグループの幼児が片手をゆらしながら、歩いて見せる。
教師「ゾウの鼻ってどうなってるかな？」
K児「長い！」
教師「そう。長いよね。でもみんなの鼻は？」
F子「短い。」
教師「そうだね、みんなの鼻は短いよね。」(Y男の手を示しながら)「Y児さん、これは何にかな？」
Y児「鼻！」
教師(周りの子へ)「これは鼻だって。ぞうグループは、ゾウの長い鼻を手で表したんだね。」
M児「こんな風に、大きくするんだよ。」(手で表現しながら伝えていた)



写真 21



写真 22

今日の活動を振り返り、感じたことや考えたことを教師や友達と伝え合う場合

教師の援助・環境構成

- ☆幼児なりに言葉で表現をしている姿を捉え、共感することで、幼児が言葉で伝えることの楽しさや受け入れられる嬉しさを感じられるようにする。
- ☆幼児の言葉を受けとめ、共感したり丁寧に返すことで皆で思いを共有したり、友達の考えに気付くことができるようにする。

幼児の姿

- 気付いた友達の良いところや上手だったところを自分なりの言葉や動きで表現する姿が見られた(写真 23・24)。
- 集中が切れたり気持ちの仕方浮き沈みがあったりして、話し合いに最後まで参加できなかったT児だが、発表では同じグループのY児と一緒に前で出て、意欲的に発表する姿が見られた(写真 25)。

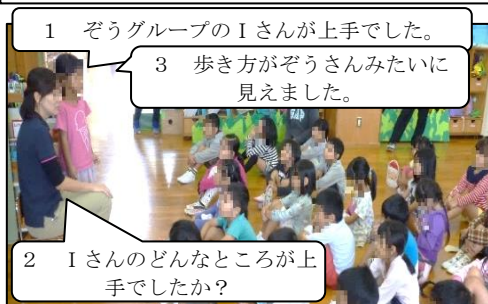


写真 23



写真 24



写真 25

5 公開検証保育後の様子

【検証保育(10)～(12)】友達と協力しながら表現劇を楽しむ(役になりきって、言葉や動きで表現したり、自信をもって演じたりする楽しさを味わう。)

○幼児の姿		☆教師の援助 □環境構成
○生活発表会本番に向けて、舞台での練習や友達の前で演じたりすることを通して、徐々に人に伝えたり見せたりする際の表現の仕方を幼児同士で意識するようになり、声や動作を大きくのびのびと表現する姿が見られた(写真26)。		□子ども達のいろいろなイメージが実現できるよう、道具や素材を用意し、表現できるようにした。 ☆自分達なりの表現を楽しむことから、お客さんを意識して演じることができるよう、気付かせたり自信をもたせたりした。
○発表会当日は、大勢のお客さんを意識しながらも、友達と力を合わせながら堂々と演じ、自分達なりの表現を楽しむ姿が見られた(写真27)。		☆幼児一人一人のこれまでの頑張りや表現を伝え、友達と一緒に自信をもって表現することができるようにしていった。 ☆皆で協力してやり遂げた喜びや満足感が味わえるようにする。
	写真28 ○気持ちの浮き沈みがあったり、自分の気持ちを言葉で伝えたりすることが苦手だったT児も、友達と一緒に発表を楽しむ姿が見られた(写真28)。	

VIII 仮説の検証

研究実践や検証保育における幼児の実態、活動の様子、発言内容、保護者アンケートなどから、幼児が生活や遊びの中で言葉の感覚を豊かにし、幼児なりの言葉で豊かに表現する子を育むことのできる援助であったかどうかを検証する。

1 具体仮説(1)の検証

園生活や遊びの場において、児童文化財を意図的・計画的に取り入れ、言葉の響きの面白さや美しさなどに気付く援助をすることで、言葉の感覚が豊かになるであろう。

本研究では、わらべうたや絵本などの児童文化財を活用した遊びを通して、幼児がいろいろな言葉に触れると共に、体でリズムを感じながら言葉の心地よさを味わえるようにしたり、言葉の面白さや美しさに気付かせ、その言葉を使って表現することを楽しんだりする経験を繰り返す味わえるようにすることで、言葉の感覚を豊かにしていけるようにしていった。

(1) 児童文化財の意図的・計画的な活用

① わらべうた遊びを通して

わらべうた遊びでは、教師や友達との触れ合いを楽しみながら、少人数で容易に楽しめる遊びを取り入れることで、以前わらべうたに馴染みのなかった子も安心感し、興味をもって親しむ姿が見られた。はじめは、教師がリードし幼児が真似ながら友達と一緒に口ずさむようにすることで、徐々にわらべうたに親しみをもち、うたの心地よさを感じながら友達と顔を見合わせ笑顔でのやりとりが見られた。また、はじめて遊ぶわらべうたは、歌の中の言葉の意味を一つ一つ子ども達と確認することで、どの子も言葉と動きを理解して楽しむ姿が見られた。

繰り返し遊びを楽しむことで、わらべうたが幼児にとって馴染みのあるものとなり、学級全体での遊びの時間以外でも、友達同士誘い合ってわらべうた遊びを楽しんでいた。また、何気ない折にわらべうたのリズムを口ずさむなど、遊びや生活の中に取り入れて楽しむ姿が見られた。

② 絵本「おおきなかぶ」の事例を通して

「おおきなかぶ」は、ストーリーに繰り返しがあがり、「うんとこしょ どっこいしょ」のリズミカルな言葉の響きを楽しめる絵本である。教師の後の追い読みを通し、言葉を声に出すようにすることで、言葉の響きや繰り返しのリズムの面白さを味わっていることが子ども達の生き生きとした表情から読み取ることができた。ごっこ遊びでは、自分の好きな役で教師や友達と一緒に遊び中で、意図的に体で言葉のリズムを感じながらリズミカルな言葉の面白さや心地よさを味わえるようにすることで、体でリズムを表現したり、友達とリズムを合わせたりすることを楽しんでいた。遊びを楽しむ中で、「また明日やりたい!」「今度は〇〇役がいいな」などという声や、「カブも作ろう」「衣装もあったらいいな」など、遊びや生活に見通しをもち、イメージを共有する姿も見られた。

このような姿から、言葉の響きや面白さに気付く援助を通して、言葉の感覚の豊かさにつながるということがいえると思われる。また、このような楽しさを共有したり表現したりする経験を、さらに積み重ね、深められるようにすることが大切であることが分かった。

③ 絵本「からすのぱんやさん」の事例を通して

「からすのぱんやさん」は、いろいろな言葉が豊富に使われ、お話の展開のテンポもよく、動物たちの生活ぶりを、バラエティに富んだお話の中で見せてくれる本でもある。お話を楽しみイメージを膨らませながら、様々な言葉に触れ親しんでほしいという教師の思いがあった。しかし、お話の世界を楽しみ、教師の発する本の言葉を後からつぶやいたり楽しんだりする子がいたが、一方で、絵本に飽きてしまう子や集中が切れてしまう子がおり、学級の幼児の発達から捉えると指導計画は再検討する必要があったと考える。また、ペープサートを使ったごっこ遊びも、子ども達が絵本や物語のお話の世界を十分に楽しむことがあってこそ、さまざまに感じとったことを言葉や動きで表現したり、自分達なりの物語をつくり出したりするようになっていくことを実感した。

(2) 保護者アンケートから幼児の変容を見取る

幼児の変容を把握するため、検証保育後、対象学級の保護者 30 名を対象にアンケートを行った。下記は、記述式の質問の「以前に比べて、お子さんの言葉が豊かになったと思うところや話し方・伝え方など、言葉の表現に成長が感じられるところがありましたらお聞かせください」という項目に寄せられたコメントの中で、「言葉の感覚の豊かさ」に関するものの一部である(表6)。

表6 幼児の変容を見取る保護者アンケートの自由記述項目のコメント

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">○説明が上手になった。(伝える力) 喜怒哀楽の表現が豊かになった。○言葉の意味を聞くようになった。○会話で使う単語や言いまわしなど、とても増えた。○相手の気持ち、状況を把握し、会話するようになった。○男の子のお友達が急に抱きついてくる時に、ビックリすることがあるようで、『嫌だキモイ』って言えば?と話をしたら、「キモイ」とか「ちくちくことば」は言っちゃいけないんだよって言っていました。胸に手をあてて「ここがちくちくすることばはだめなの」と話をしていた、表現方法を考えさせられました。 |
|--|

これらのコメントから、言葉への興味や関心が高まってきたことや語彙が増えつつあること、言葉で伝える際に伴う表情や表現の豊かさ、伝える相手を意識して言葉を伝えようとする気持ちなどが育ってきつつあることが伺える。

2 具体仮説(2)の検証

園生活や遊びの場において、いろいろな言葉や表現を楽しむことのできる環境や援助を工夫することで、伝わる嬉しさや楽しさ、友達や教師とイメージを共有する面白さを味わい、豊かな言葉で表現する子が育つであろう。
--

(1) いろいろな言葉や表現を楽しむことのできる環境や援助

① わらべうた遊びを通して

「おちゃらか」では、歌やリズムに合わせて動きを楽しんだ後、決まった動きだけでなく、「勝ったよ」「負けたよ」「あいこで」の言葉に合わせたポーズを自分達で考えて決めるなど、言葉のもつイメージを共有し、自分達なりの表現を楽しめるようにした。「勝ったよ」の嬉しい時の表現

は、両手でピースをする子、ガッツポーズをする子など、「負けたよ」の負けた時の悔しさや残念な気持ちは、がっかりしたように下を向くポーズ、両手で×ポーズなど、幼児なりのイメージを思い思いに動きで表し、言葉や動作で友達と伝え合う姿が見られた。教師は、『嬉しい』っていう気持ちが伝わってくるポーズだね」など、幼児の表現に共感する言葉かけや、「あいこ」のポーズは手をつなぐ動作で表現したグループに対して「いいね。あいこは、同じものを出したから、仲良しみたいだね。」など、幼児の気持ちを汲み取ったり言葉にして伝えたりするようにし、子どものイメージをより具体的に共有できるようにしていった。また、教師も加わり共感しながら一緒に遊びを楽しむことを通して、イメージを共有し合い、自分で考えたポーズを取り入れながら遊びを楽しむ姿が見られた。自分の考えたポーズが相手に伝わり、楽しさを共感すると、次第に幼児自ら人数を増やしたり遊びを提案したりして楽しむ姿が見られた。

② ペープサートを活用したスリーヒントクイズを通して

スリーヒントクイズ遊びでは、教師のヒントを真剣に聞き、ヒントからイメージしたものを答えたり教師とのやりとりを楽しんだりした後、子ども達に出題者になってもらうことにした。自分の身近にあるもの(ブランコ・縄跳びなど)や園で育てた野菜(ゴーヤ・キュウリ・トマトなど)、動物(ウサギ・ライオン・ワニなど)、生活の中で使っているもの(コップ・水筒)など、自分の知っているものや日常の中で親しんでいるものを挙げ、自分なりにその答えからイメージするヒントを一生懸命考える姿が見られた。

ゴーヤを答えにして出題したI子は、「私は、緑色の野菜です」「ブツブツしています」「食べると苦いです」など、自分の体験から得たことをヒントとして言葉にして表現したり、ワニを答えに出題したH男は、「私は、動物です」「肉食です」「川に住んでいます」など、自分の知っている知識をうまく言葉にして友達に伝えたりする姿が見られた。幼児から難しい言葉が出た際は、「〇〇って何のことか分かるかな」と発問しながら言葉のもつ意味を皆で共有できるようにしていった。また、出題者が一方的にヒントを出すだけでなく、状況に応じて答える側から質問するなど、子ども同士で言葉のやりとりができるようにしていった。正解すると答えた方も出題者もイメージが共有できた喜びからか、喜びに溢れた表情を見せていた。

③ 「おおきなかく」の劇ごっこから劇遊びを通して

絵本を活用した遊びでは、幼児の発達や学級の実態に合わせ、子ども達に馴染みのありどの子も内容を理解しやすい「おおきなかく」を意図的に取り入れることで、お話のストーリーのイメージを共有しながら遊びを楽しむことができた。幼児が自分達で考えて決めた登場人物に、その役らしいセリフや動きを皆で考えていく中では、教師は子ども達の役に対してのイメージを大切にしながら、幼児の言葉やしぐさでの表現を読み取ったり思いを確認したり、言葉を膨らませたり、言葉を引き出したりする援助をすることを通して、幼児なりの新たな言葉での表現が聞かれたり、いろいろな言葉での表現があることに気付いたりする姿が見られた。また、教師が幼児の考えやイメージに共感したり言葉を補ったりしながら、幼児同士のイメージをつなげる援助をすることで、互いのイメージを共有し一緒に役になり幼児なりの表現を楽しむ姿が見られた。

上記の姿より、教師が幼児なりの表現を大切に、共感したり認めたりすることいろいろな言葉や表現を楽しむことのできる環境や幼児の言葉を補ったり引き出したりする援助を通して、伝わる嬉しさや楽しさ、友達や教師とイメージを共有する面白さを味わい、幼児なりの言葉で表現する姿が見られていったと思われる。

(2) 保護者アンケート結果から見える幼児の変容

検証保育後に行った保護者アンケートを行った。図3は、検証前後のアンケート結果である。

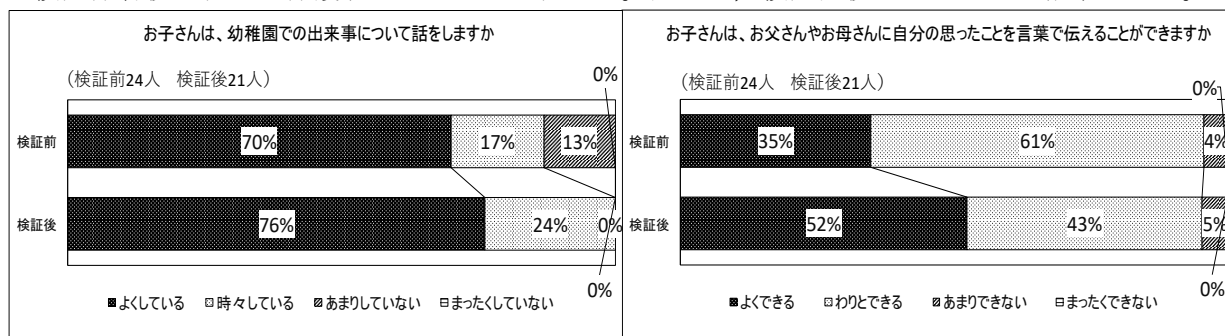


図3 幼児の変容を見取る保護者アンケート結果

また、表7は、記述式の質問項目で寄せられたコメントの中の、「言葉の表現の育ち」に関する内容の一部である。

表7 保護者アンケート（検証後）の自由記述項目のコメント

- | |
|--|
| <p>○家庭では使わない言葉をよく使うようになり、言葉の発達を感じる。</p> <p>○入園当初は聞かないと園での様子や友達のことを話さなかったですが、今は自ら話してくれるようになっていきます。わからない言葉とかも教えてほしいと言ってくるようになっていきます。</p> <p>○自分の意思を伝える事が多くなった。「～したい」など。</p> <p>○先生との何気ない会話が本人の中で初めて知ったことだった内容だと、家で「お母さん、これ、わかる？」と話してきます。成長を感じます。</p> <p>○今までは、理解するのがあまりできず、出来事を説明する事が難しいようでしたが、今では状況を理解して「今日、誰と誰が、こういう理由でケンカをしていたよ」とか、「誰々が、今日髪形をほめてくれて、嬉しい気持ちになったよ」とこまかく説明できるようになって、自分の感情を伝えるのが、上手になりました。</p> <p>○保育園の頃は、説明する言葉や理解力も弱かったせいか、伝えようとはしていても十分に自分の言葉で説明できなかった。今は、「なぜ」「その理由は」なども理解していて、子どもからの伝達で十分に伝わるようになった。また、新しい語彙も増え、いつ覚えたの？と思うワードを会話の中で聞けるようになった。</p> |
|--|

検証前後の比較や自由記述のコメントなどから、幼児が自ら話したいという意欲が高まってきたことや会話の中での感情の伝え方、説明の仕方などの成長を保護者自身が感じていることが分かり、園での様々な遊びや生活の中で、教師や友達とイメージを共有したり共感したりする経験を重ねていくことから、言葉の表現の豊かさにつながったのではないかと考えられる。

Ⅸ 研究の成果と課題

1 成果

- (1) 理論研究で、幼稚園教育要領「言葉」についての理解を深めることで、幼児の言葉を育てる環境構成や援助の仕方が明確になった。
- (2) 幼児の思いを読み取ったり、尋ねたり、言葉を付け加えたりする援助をすることで、幼児の言葉を引き出すことができ、幼児なりの表現につながった。また、幼児の言葉にならない思いや仕草、身ぶり、手ぶりなども読み取る大切さを実践で実感することができた。
- (3) 幼児の発達に即した児童文化財を活用し、言葉のリズムや響きの面白さに気付かせたり、ごっこ遊びから劇遊びに遊びや活動を発展させたりすることで、皆でイメージを共有し合う楽しさを味わい、幼児なりの言葉や表現につながった。

2 課題

- (1) 絵本の特徴や作者の意図を丁寧に読み取ることが十分ではなかった。今後、教材の精選や研究に努め、作品本来のよさを生かしながら、幼児一人一人の発達をしっかりと見通して、生活や遊びの中に取り入れていきたい。
- (2) 今後も幼児の発達や内面を捉えながら、絵本や物語を通して豊かなイメージをもち、幼児なりの表現を楽しめるようにし、言葉を使った遊びを楽しむ経験をさらに重ねていくことができる具体的な環境構成や援助の仕方を模索していく。
- (3) 豊かな言葉を育む身近な環境やモデルとして、教師自身が言葉を意識して伝えるよう努めていく。

〈主な参考文献〉

- ・近藤幹生 濱川雅子 源証香 小谷宣路 滝口優 2019 『実践につなぐ ことばと保育』 ひとなる書房
- ・谷田貝公昭[監修] 大沢裕[編著] 2018 『コンパクト版 保育内容シリーズ④言葉』
- ・文部科学省 2018 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館
- ・正置友子・大阪保育研究所 2015 『保育のなかの絵本』 かもがわ出版
- ・森上史郎 柏女霊峰 編 2015 『保育用語辞典 第8版』 ミネルヴァ書房
- ・柴咲正行・戸田雅美・秋田喜代美 編 2010 『最新保育講座 10 保育内容「言葉」』 ミネルヴァ書房